

学生食堂の利用実態と改善に向けての提言

——「学生食堂に関するアンケート調査」集計結果より——

1. 調査の目的

本学の学生食堂（カリタスホールラウンジ）の利用率が高くないことは以前より把握されてきた。提供されるメニューの種類や質，座席数の少なさ，衛生面の問題などについて，学生たちから不満の声が上がっており，本年4月に実施した新入生アンケートの自由記述回答においても，学生食堂に言及したものが少なくない。カリタスホールラウンジが，食事の場としても，学習をしたり友人たちと学内で過ごす場所としても，快適な空間となりえていない実態がある。

本学では，2018年度に学生食堂ワーキンググループを設置し，学生食堂の改善を図るべく検討を重ねてきたが，学生の利用の実態を明確にし，より具体的な改善へとつなげるためのデータを収集することを目的として，2019年5月のキャップ&ガウン授与式リハーサルを利用して4年生を対象にアンケート調査を実施した。

2. 調査の概要

本調査はキャップ&ガウン授与式リハーサル内の限られた時間で実施するため，10分以内で回答できるよう質問項目を厳選する必要がある，質問数はA4用紙2ページに収まる分量にとどめた。主な質問内容は，学生食堂の満足度や評価，昼食の調達方法や昼食を食べる場所，昼食に使う金額，ラウンジの利用方法，学生食堂の改善を望む内容等である。全10問のうち，最後の問10は改善のためのアイデアや要望を自由に記述する形式である。

調査は2019年5月8日（水）のキャップ&ガウン授与式リハーサル時に，リハーサルに出席した4年生全員に調査票を配布し，その場で回答してもらい回収するという方法で実施した。回答時間はおよそ10分である。なお，4年生は履修科目数が少なく大学で昼食を食べる機会が減ること，また就職活動等の理由で下宿を引き払い自宅からの通学に切り替える学生がいること等を考慮し，各質問には「3年生までのことを思い出して」回答してもらっている。

回答者の学科別内訳および出席率，自宅・自宅外の内訳は以下のとおりである（表1・表2）。

表1 回答者の学科別内訳（問1）および出席率

	英文	日文	現社	人間	児童	食品	全体
回答者数	59	49	43	56	130	64	401
(%)	14.7	12.2	10.7	14.0	32.4	16.0	100.0
在籍者数	107	79	68	87	148	92	581
出席率	55.1	62.0	63.2	64.4	87.8	69.6	69.0

注）在籍者数は，2019年5月の学生調数に基づく。

表2 自宅から通学・一人暮らし（問2）

	度数	%
自宅から通学している	337	84.0
アパート・マンション等で一人暮らし	62	15.5
その他	2	0.5
計	401	100.0

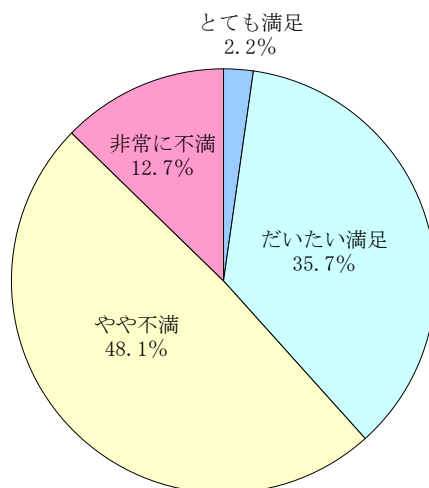
注)「その他」は2名とも、祖父母の家から通学している。

3. 基礎集計結果

3.1 学生食堂の満足度

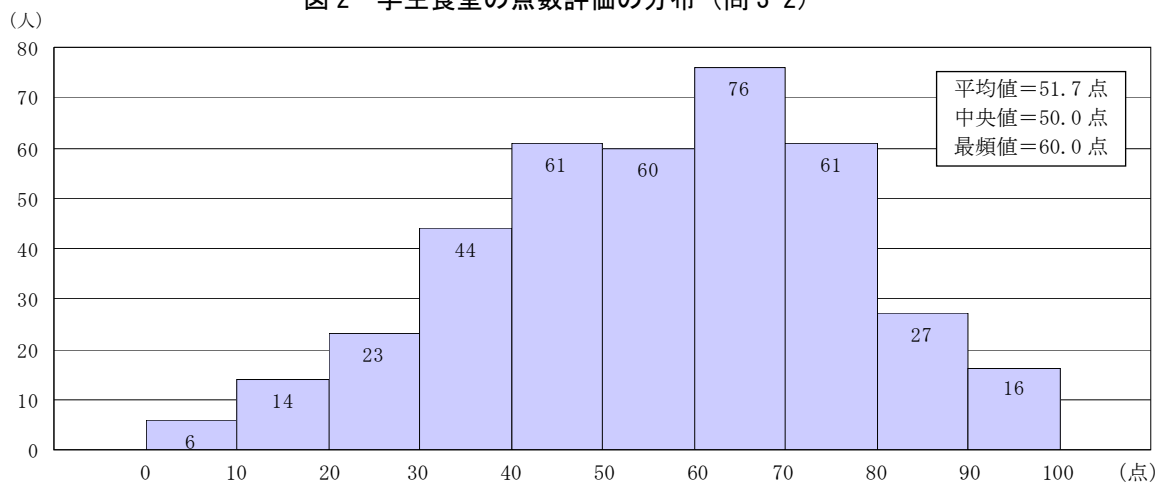
これまでの大学生活を通して本学の学生食堂にどの程度満足しているか、また、本学の学生食堂に点数をつけるとしたら100点満点で何点ぐらいかを尋ねた。図1および図2は、その単純集計結果である。

図1 学生食堂の満足度（問3-1）



注) 無回答の5名を除く。

図2 学生食堂の点数評価の分布（問3-2）



注) 無回答の13名を除く。

図1からは、全体の6割が本学学生食堂に不満を持っていることがわかる。ただし、「非常に不満」という回答は12.7%にとどまり、当初予想していた結果よりも「穏当な」ものであった。また、100点満点による採点も、10点未満の辛辣な回答は6名にとどまり（「0点」「1点」「2点」各1名、「5点」3名）、最も回答が多く分布するのは60点台である。

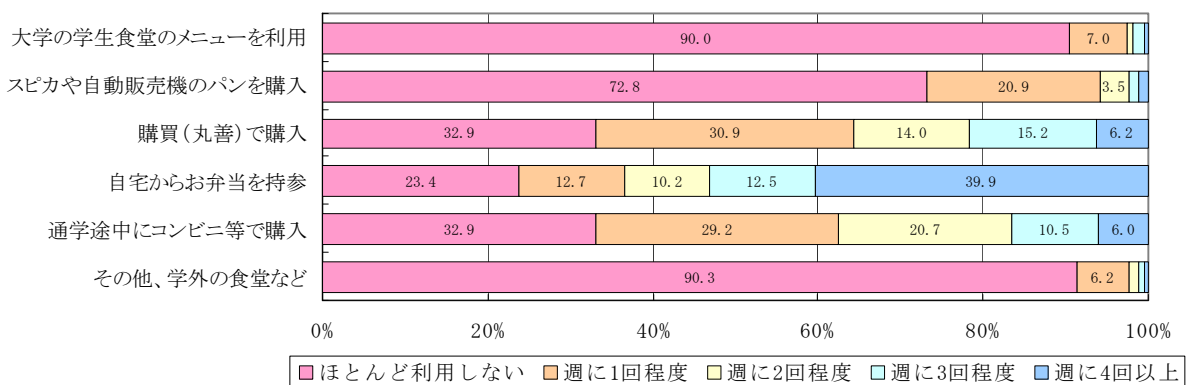
しかし、これらの結果を「学生食堂に大きな不満はない」ととらえることは早計であろう。問10「自由記述」の一覧からは学生たちの本音をうかがうことができる。また、後述するように、学生食堂への満足度が相対的に高い者は、学生食堂を利用していないということとも関連している。

3.2 昼食時の学生食堂の利用の実態

本学学生は、昼食に「何を」食べ、昼食を「どこで」食べているのか。その際に、学生食堂（カリタスホールラウンジ）は有効に利用されているのか。

図3は、昼食をどのように調達しているのかを示したものである。学生食堂のメニューは、90.0%が「ほとんど利用しない」と回答している。半数以上が週に3回以上、自宅から弁当を持参しており、弁当を持ってこない日には、通学途中で購入あるいは学内の購買や自動販売機等で購入している実態が浮き彫りになった。

図3 昼食の調達方法（問4）



また図4は、昼食を食べる場所としての各ラウンジや学内各所の利用頻度である。図3で学生食堂メニューはほとんど利用されていないことが示されたが、カリタスホールラウンジは弁当やカップラーメン、パン等を食べる場所として利用されており、回答の「1」「2」を合わせた利用層は31.0%である。ただし、ヨゼフホールラウンジやジュリーホールラウンジの利用層がともに54.6%であるのに比べると、カリタスホールラウンジの利用頻度は少ないといえる。

さらに、昼食を食べる場所として最も選択されているのが「空いている教室」(57.6%)であるという現状は、看過できないものである。本学の3つのラウンジ、100ND、テラス等の合計席数は1,448席であるが、この数で昼食時の学生たちの座席をまかない切れないことは以前から課題とされてきた。また、6人掛け、4人掛けの席が多いことも、無駄な空席を生み出す要因となっている。

図4 昼食を食べる場所（問5）

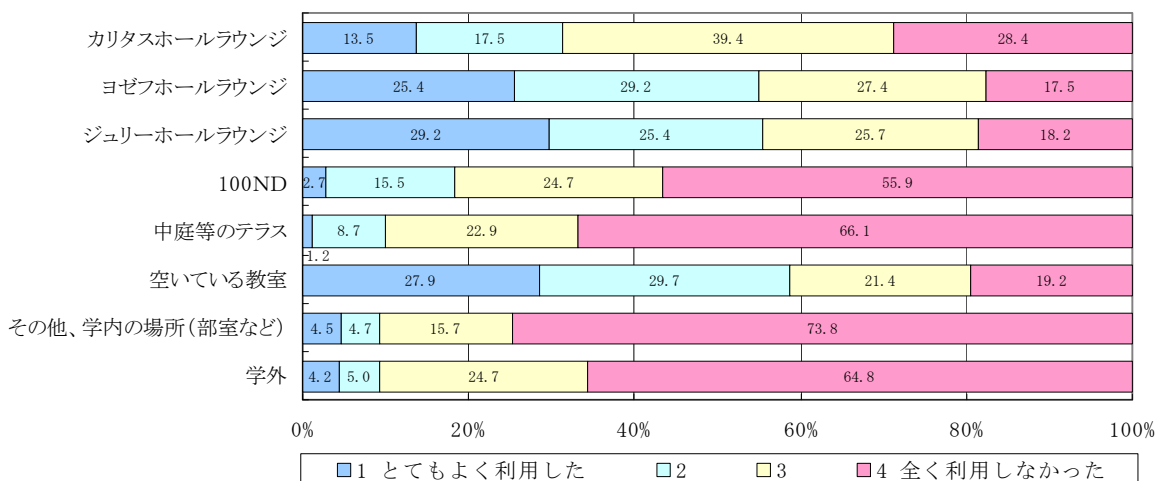
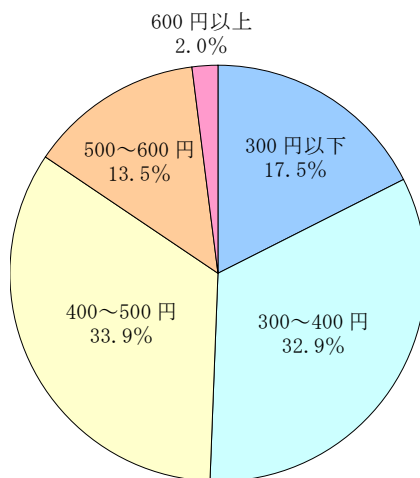


図5は、普段の昼食代に使う金額を尋ねた結果である。300円台、400円台が最も多い。学生食堂の価格設定は、定食で400円台、単品の組み合わせでも500円以下におさまるようにしなければ、学生たちにとって「高い」と感じられるであろう。

図5 1回の昼食代に使う金額（問6）



注) 無回答の1名を除く。

3.3 ラウンジとしての利用

図6は、カリタスホールラウンジに限らず、本学のラウンジ（100NDを含む）で過ごす際の人数を示したものである。昼食時・昼食時以外のいずれも「3～4人」が最も多いが、昼食時以外の場合は「1人」「2人」での利用が半数を占める。4名以下の少人数での利用が大多数である現状を考えると、学生たちにとって現在のカリタスホールラウンジの長く横並びになった座席の配列は、とくに昼食時以外には使い勝手があまりよくないように感じられているであろう。

学生にとっての利用のしやすさという観点からは、2人席を基本にし、座席の配置が自由に変更できる軽量で可動式のテーブルを導入することが望ましい。ただし、座席数の確保という観点

では、現在の配置が効率的であることは否めず、現在の座席数を減らすことなく、ゆとりある空間をいかに実現できるかが大きな課題となる。

図6 ラウンジ等を利用するときの人数（問7）

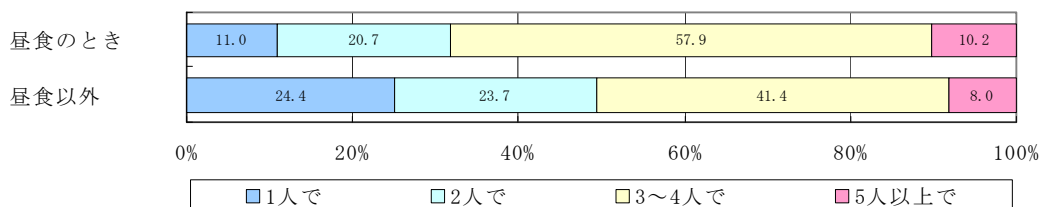
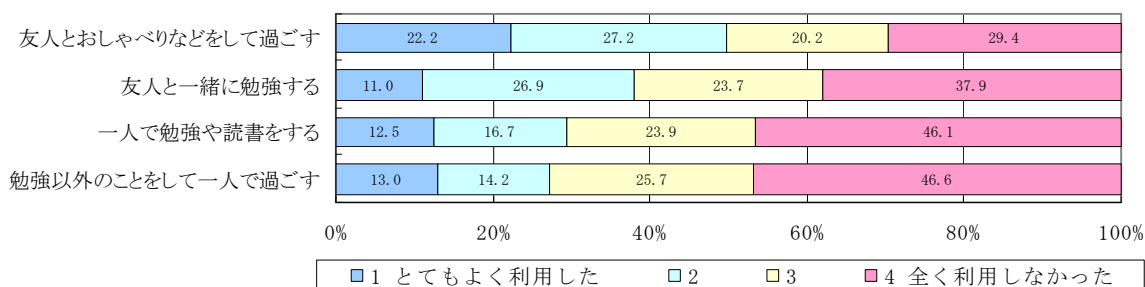


図7は、昼食時以外のカリタスホールラウンジでの過ごし方についてである。友人と一緒におしゃべりや勉強などをする場合には利用頻度は比較的高いといえるが、一人で過ごす場としてはあまり活用されていない。

図7 昼食時以外のカリタスホールラウンジの利用（問8）



3.4 学生食堂の改善点

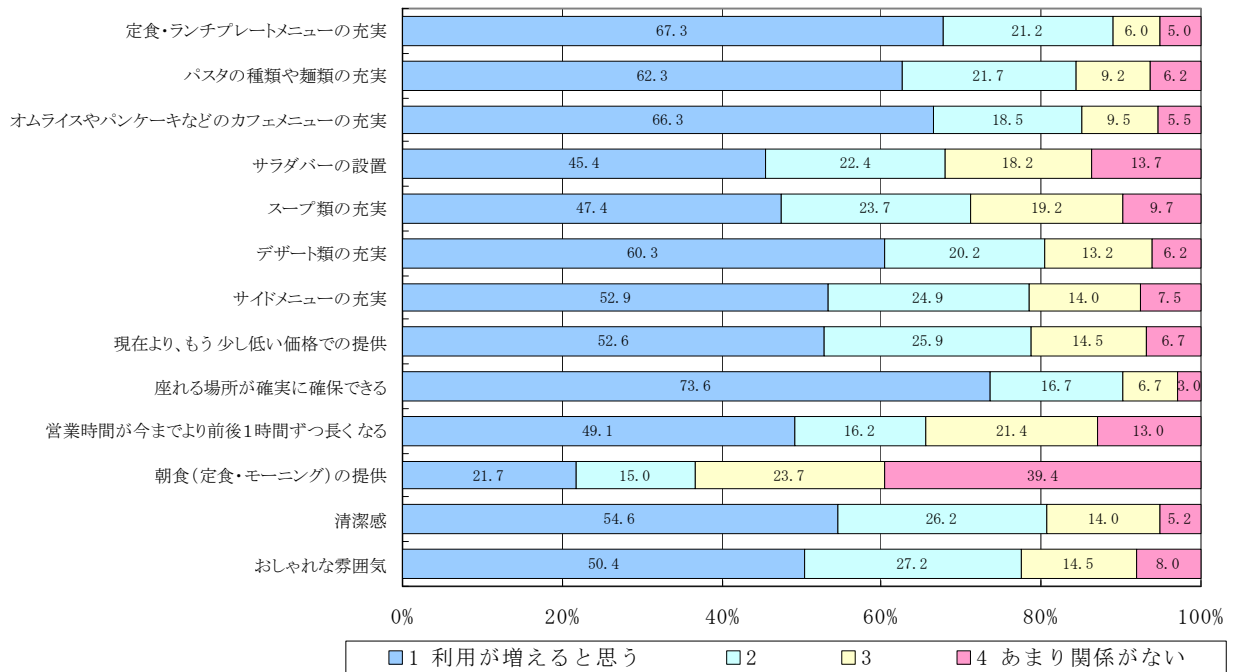
以上の集計結果から、本学の学生食堂が提供メニューの購入の面でも、昼食を食べる場所としても、昼食時以外に学内で過ごす空間としても、十分に機能せず、期待される役割を果たしていない現状が浮かび上がってくる。

では、具体的にはどの点を改善すべきなのだろうか。図8は、学生たちが改善を望む学食メニューや価格、座席数、営業時間、雰囲気や環境などの具体的な内容を示したものである。図中に挙げた各項目が実現すれば「あなたが学生食堂を利用する回数は増えると思いますか。それとも、自分にはあまり関係がないと思いますか」という尋ね方をしており、「利用が増えると思う」という回答の比率が高い項目ほど、現状に満足できていないととらえることができる。

最も要望が強いのは「座れる場所が確実に確保できる」であり、実現すれば利用回数が増えると思うと回答したのは「1」の73.6%、「2」の16.7%を合わせて90.3%にも上る。やはり座席数については、全学的にすぐにも着手しなければならない問題であるといえるだろう。

メニューについては、サラダバーやスープ等のサイドメニューよりも、定食や麺類などの充実を望む声が多い。価格、清潔感、雰囲気についても8割前後が現状に満足できていないことが図からうかがうことができる。

図8 実現を望む改善内容（問9）



なお、学生食堂（カリタスホールラウンジ）の改善すべき点や要望については、問10の自由記述にも多くの声が寄せられている。401名の全回答者のうち252名（62.8%）が改善のためのアイデアを出してくれた。これらの記述の中で最も多かったのが、メニューの種類や提供数などメニューに関する提案や要望である。また、学食に行っても空いている席がなく座れないという意見も多い。その他、食堂の雰囲気や清潔感に関する意見も寄せられた。

彼女たちの記述の主なものを、内容別に以下に掲載する。これらの記述からは、学生たちが学生食堂に対して実に多くの点で利用のしにくさを感じていることがわかる。意見を寄せてくれた彼女たちの思いを丹念に汲みとり、有効な改善につなげていく必要がある。

現在の学食メニューの種類に関する提案・要望

- ・メニューの種類をもっと増やしてほしい。
- ・定食を充実させてほしい。
- ・日替わり丼以外にも、パスタなどを日替わりにしてほしい。
- ・もっと麺類の種類を増やしてほしい。
- ・ヘルシーメニューの充実。野菜の量を増やしてほしい。
- ・低価格で品数を増やしてほしい。
- ・小皿のメニューや、簡単な味噌汁などもあるといい。
- ・おかずの種類を増やしてほしい。おにぎりのお供に少し一緒に食べられるものがあればよいと思います。
- ・メニューが増えればよいと思います。ファーストフード的なもの（アメリカンドッグなど）があればよいと思います。

新しいメニューに関する提案・要望

- ・サラダバーを導入してほしい。
- ・デザートを提供してほしい。
- ・女子ウケのよいカフェメニューの充実。
- ・軽食をもっと充実させてほしい。
- ・女性にうれしいヘルシーで美容に特化したメニューがあるといいと思います。
- ・清心オリジナルメニューや、食品栄養学科とのコラボメニュー。
- ・お弁当やテイクアウトできるものがほしい。
- ・一人暮らしにとってバランスが良く、栄養が考えられたご飯。
- ・おしゃれなごはんを売ってほしい。

メニューの提供数、おいしさなどに関する提案・要望

- ・お昼に行くと売り切れていることがほとんど。もっと提供数を増やしてほしい。
- ・人気のメニューはすぐに売り切れる。食べたいメニューが食べられない。
- ・全員が好きなメニューを食べられるようにしてほしい。
- ・昼休みより少し前に行かないと売り切れる状態はありえない。
- ・味を改善してほしい。
- ・出来立てを提供してほしい。
- ・食券機で並ぶ時間を短縮してほしい。

メニューの提供方法に関する提案や要望

- ・テイクアウトできるメニューを作してほしい。
- ・ミールカードの導入。
- ・クーポンやプリペイド式のカードの導入。
- ・buffet形式、バイキング形式にしてほしい。

座席数の少なさや座席の配置に関する提案・要望

- ・席が空いていないことが多く、利用したくてもできていません。
- ・席が少なく、席と席との間が狭い。
- ・場所取りをしないといけないよう状況をどうかしてほしい。
- ・隣の席の人との距離が近いので、一人で利用するとき座りづらい。
- ・二人席を増やしてほしい。

営業時間や価格に対する提案・要望

- ・食堂の営業時間が短いのが困っていた。10時から17時程度までオープンしてほしい。
- ・営業時間が11時から14時だと使いやすい。
- ・土曜日でも学食が利用できるようにしてほしい。
- ・朝食が低価格で提供されると、朝ご飯を食べない学生の減少につながると思う。

- ・朝食があったら利用したい。
- ・夜も利用できたらいい。
- ・営業時間が長く、場所がもっと大きければ、一人暮らしの人が利用しやすかったり、勉強で遅くまで残っている学生が利用できると思います。
- ・定食 400 円は少し高い気がする。他大学では 400 円以下で売っているところもあり、少し値段を下げしてほしい。

学生食堂の雰囲気や環境，清潔感に関する提案・要望

- ・食堂が全体的に暗い。照明を明るくしてほしい。
- ・女子大らしいおしゃれな雰囲気を作してほしい。
- ・BGMをかけてほしい。
- ・お皿やコップなど食器をおしゃれにする。
- ・テーブルやイスをおしゃれなものに変える。
- ・Wi-fi の設置。
- ・カフェのような空間にしてほしい。
- ・フードコートのような場所だといいなと思います。
- ・もっと清潔感がほしい。
- ・食器が古くさく、コップが汚い（歴史を感じる）
- ・机を拭くものを多く用意してほしい。

4. 自宅生と下宿生の学生食堂の利用傾向

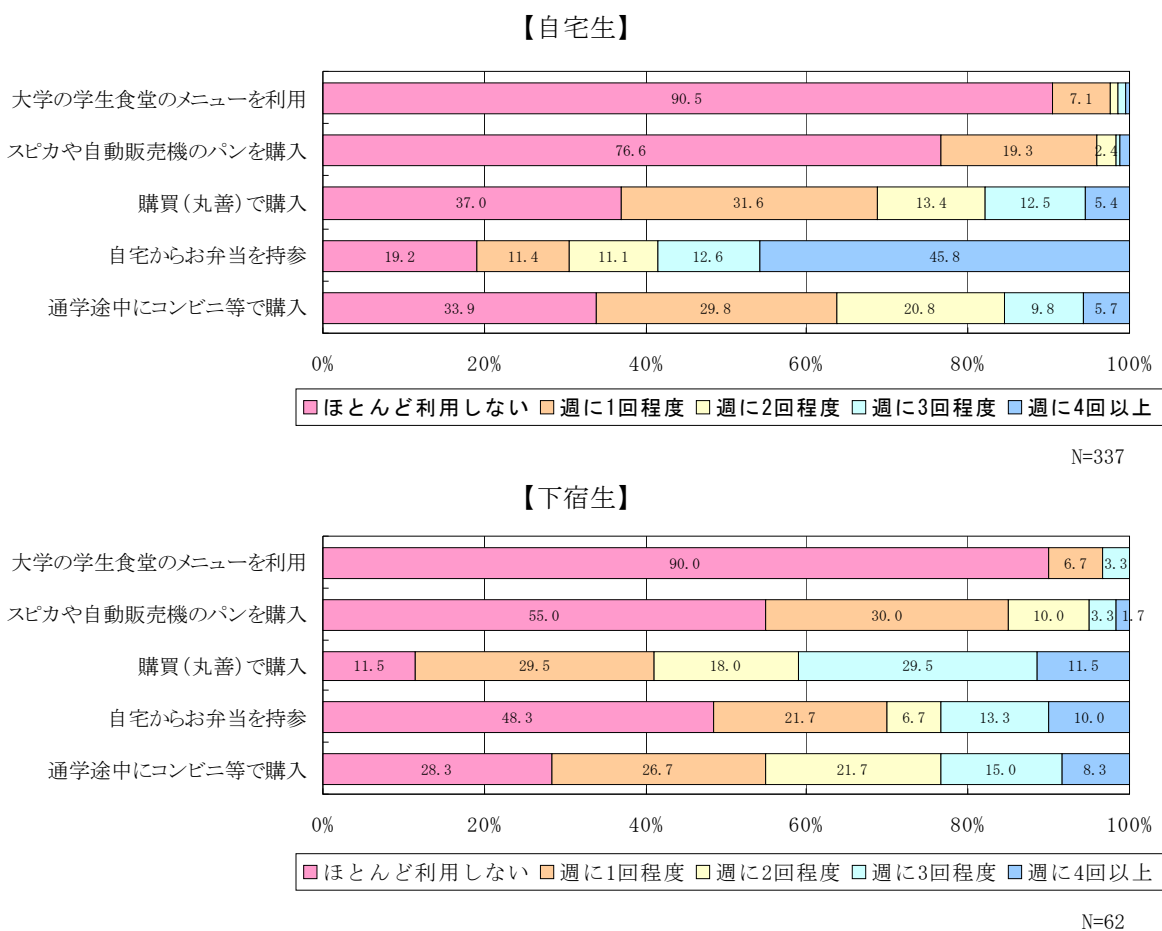
自宅から通学している学生と親元を離れて一人暮らしをしている学生とでは、学生食堂の利用の傾向が異なることが考えられる。本学の場合は自宅通学生が圧倒的に多く、今回の調査でも回答者 401 名のうち 84.0%が自宅生である（表 2）。弁当を持参することが難しい下宿生に、本学学生食堂はどのように利用されているのだろうか。図 9 は、昼食の主な調達方法の頻度を自宅生・下宿生別にみたものである。なお、祖父母の家から通学している 2 名については、この分析から除外している。

自宅生はほぼ毎日、自宅から弁当を持参し、弁当持参でない日は購買あるいは通学途中で昼食を購入していることがうかがえる。学生食堂のメニューはほとんど利用されていない。

一方、下宿生も学生食堂のメニューはほとんど利用していない。最も利用されているのは学内の購買であり、次いでコンビニ等の通学途中の店舗である。弁当の持参が難しい下宿生にとっても、本学の学生食堂は利用しにくいことがわかる。

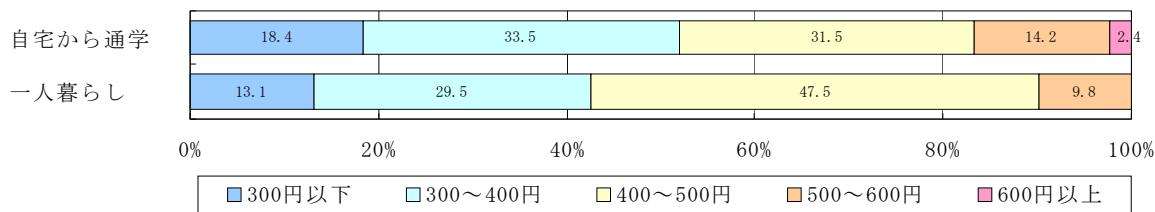
なお、データは示さないが、昼食をどこで食べるかという点に関しては、下宿生は自宅生と比べると 3 つのラウンジをあまり利用していない。下宿生が昼食を食べる場所で多いのは、100ND と空いている教室である。あるいは、下宿が大学から近い場合には下宿に帰って昼食を食べるといった選択もあるだろう。いずれにしても、下宿生たちは学生食堂（カリタスホールラウンジ）を積極的に利用していない。

図9 自宅生・下宿生別にみた昼食の主な調達方法



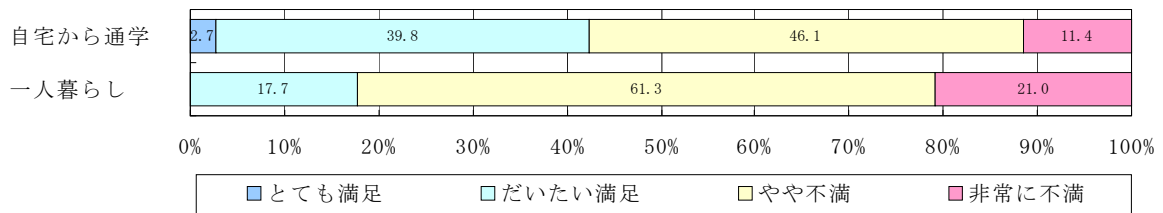
1回の昼食代として使う金額を比較すると、どちらが高いとは一概にいえませんが、下宿生の「400～500円」という価格帯が最頻値となっている（図10）。下宿生にとって、毎日の昼食代として支払える金額の限度が500円までであると感じられているのかもしれない、学生食堂メニューの価格を設定する際の一つの目安とすべきであろう。

図10 自宅生・下宿生別にみた1回の昼食代に使う金額



最後に図11で自宅生と下宿生の学生食堂の満足度を比較すると、下宿生のほうが、より不満を持っているといえる。図9に示されるように、多くの下宿生が弁当を持参していないにもかかわらず、購買（丸善）やコンビニでの調達が多いのは、この不満の高さによるものであるかもしれない。

図 11 自宅生・下宿生別にみた学生食堂の満足度



5. 弁当持参学生の学生食堂の利用傾向

図 3 で示されたとおり、本学学生の昼食の特徴はその大半がほぼ毎日、自宅から弁当を持参することである。この大多数を占める学生たちの動向もきちんと把握しておく必要があるだろう。

そこで、弁当持参の頻度別に、学生食堂やカリタスホールラウンジの利用状況を比較することにする。弁当持参の頻度は、問 4「自宅からお弁当を持参」の回答を「ほとんど利用しない」「週に 1 回～3 回程度」「週に 4 回以上」の 3 グループに分け、それぞれ「ほとんど持ってこない」「週に何度か持ってくる」「ほぼ毎日持ってくる」とした。各グループの人数はそれぞれ、94 名、142 名、160 名である。

次の表 3 は、弁当を持参する頻度別に学生食堂への評価の平均値を比較したものである。弁当を持参する頻度が高いほど、学生食堂の満足度も 100 点満点の採点評価も高いことがわかる。

ただし、弁当持参派の満足度の高さは、学生食堂を利用した結果を反映しているとは必ずしもいえない。次の表 4 に示すとおり、弁当を持参する頻度が高い学生たちは昼食を食べる場所としてカリタスホールラウンジを選んでいるわけではない。ほぼ毎日弁当を持ってくる学生たちは、空いている教室、ジュリーホールラウンジをよく利用している。弁当持参派の学生食堂への評価の高さは、「あまり利用していないゆえの、不満のなさ」と解釈すべきであるように思われる。

表 3 弁当持参頻度別にみた学生食堂の評価の平均値の比較

	ほとんど持ってこない (94)	週に何度か持ってくる (142)	ほぼ毎日持ってくる (160)	全体 (396)	有意確率
学生食堂の満足度	2.17	2.29	2.33	2.28	0.236
学生食堂の採点 (100点満点)	49.53	51.35	53.45	51.77	0.345

注) 満足度は「とても満足」を 4 点、「非常に不満」を 1 点としており、数値が高いほど満足度が高いことを意味する。

表 4 弁当持参頻度別にみた昼食時の主な利用場所の比較

	ほとんど持ってこない (94)	週に何度か持ってくる (142)	ほぼ毎日持ってくる (160)	全体 (396)	有意確率
カリタスホールラウンジ	<u>2.04</u>	2.23	2.18	2.17	0.370
ヨゼフホールラウンジ	2.66	2.62	2.60	2.62	0.918
ジュリーホールラウンジ	<u>2.49</u>	2.63	2.79	2.66	0.101
100ND	1.40	1.72	1.74	1.65	0.005
中庭等のテラス	1.33	1.45	1.50	1.44	0.184
空いている教室	<u>2.41</u>	2.66	2.86	2.68	0.007

注) 各場所について「とてもよく利用した」を 4 点、「全く利用しなかった」を 1 点としており、数値が高いほどよく利用されていることを意味する。

では、学生食堂が改善されると、弁当持参派たちが学食メニューを利用するようになることは期待できるのであろうか。また、弁当をほとんど持ってこない学生たちも、学生食堂を利用するようになるのだろうか。

表5は、学生食堂の諸点が改善された場合に利用回数が増えると思うかどうかについて、弁当持参の頻度別に平均値を算出したものである。平均値が高いほど、改善されれば「利用回数が増えると思う」ことを意味する。

表5 弁当持参頻度別にみた学生食堂改善後の利用回数の増加の見込み

	ほとんど持 ってこない (94)	週に何度か 持ってくる (142)	ほぼ毎日 持ってくる (160)	全体 (396)	有意確率
定食・ランチプレートメニューの充実	3.59	3.60	3.39	3.51	0.050
パスタの種類や麺類の充実	3.51	3.47	3.29	3.40	0.102
オムライスやパンケーキなどのカフェメニューの充実	3.52	3.55	3.35	3.46	0.097
サラダバーの設置	<u>1.95</u>	<u>1.85</u>	2.20	2.01	0.015
スープ類の充実	3.20	3.18	2.93	3.08	0.044
デザート類の充実	3.48	3.38	3.22	3.34	0.081
サイドメニューの充実	3.34	3.29	3.12	3.23	0.140
現在より、もう少し低い価格での提供	3.31	3.30	3.16	3.25	0.326
座れる場所が確実に確保できる	3.70	3.48	3.66	3.61	0.037
営業時間が今までより前後1時間ずつ長くなる	3.22	3.01	<u>2.89</u>	3.02	0.074
朝食（定食・モーニング）の提供	2.39	2.16	<u>2.08</u>	2.18	0.110
清潔感	3.33	3.26	3.31	3.30	0.831
おしゃれな雰囲気	3.30	3.24	3.09	3.19	0.189

注) 各改善点について「利用回数が増えると思う」を4点、「自分にとってはあまり関係がない」を1点としており、数値が高いほど改善後の利用回数の増加が期待できることを意味する。平均値が3.40以上のものを太字にしている。

弁当持参頻度にかかわらず全体的に改善の要望が高いといえるのは「座れる場所が確実に確保できる」(3.61)、「定食・ランチプレートメニューの充実」(3.51)、「オムライスやパンケーキなどのカフェメニューの充実」(3.46)、「パスタの種類や麺類の充実」(3.40)などである。しかし、多くの学生たちが強く期待している改善点の中で弁当持参派が望むのは「座れる場所の確保」のみである。定食や主菜メニューの充実への関心は相対的に低く、サイドメニューについても、サラダバー以外は要望が高くない。もちろん、平均値が3点台である項目は改善後の利用の増加が十分に期待できると考えられる。

それに比べて、弁当をほとんど持ってこない学生たちの期待度は高い。「サラダバーの設置」「朝食の提供」以外はすべて平均値が3点以上であり、メニューや環境が改善され、座れる場所が確保できるならば、学生食堂を利用したいという気持ちを感じられる結果となっている。

6. 満足感を生み出すもの

本稿の基礎集計結果の冒頭で、学生食堂に対する満足度や100点満点での採点評価について言及した(図1・図2)。これらの結果は、かなり辛辣な評価になるのではないかという我々の調査実施前の予想を良い意味で裏切るものであった。すなわち、学生食堂の現状に満足している学生

が存在するということである。

では、学生食堂に満足している学生たちにはどのような特徴がみられるのだろうか。この点を明らかにして、カリタスホールラウンジを学生食堂としてより魅力的な空間にするための提言につなげたい。

ここでは、問 3-2 の 100 点満点の採点評価の結果を用いることとし、「0～39 点」と採点した者、「40～79 点」と採点した者、「80～100 点」と採点した者の 3 グループに分けて比較をおこなう。各グループに含まれる人数はそれぞれ、87 名、258 名、43 名である。なお、問 3-1 の「とても満足」「だいたい満足」「やや不満」「非常に不満」の 4 グループによる比較においても、3 グループによる分析と同様の結果が示された。

表 6 は、昼食を食べる場所の利用頻度を採点評価別に比較したものである。本学の学生食堂に 80～100 点の高得点をつけた者は、昼食時にカリタスホールラウンジを「居場所」として頻繁に利用していることがうかがえる。

この結果からは相関関係が指摘できるだけであり、因果関係は明らかではない。すなわち、満足しているから食事場所としてカリタスホールラウンジを選んでいるという解釈もできる。逆に、あまり不満を持たず現状にそこそこ満足できる者がカリタスホールラウンジを使っているという解釈も成り立つ。しかし、彼女たちが現在の学生食堂に高得点をつけたことは事実である。

この高得点をつけた学生たちは、昼食時だけでなく、昼食時以外もカリタスホールラウンジを頻繁に利用していることも明らかになった。次の表 7 は、その結果を示したものである。昼食時以外に友人と一緒に、あるいは一人で過ごす際に、カリタスホールラウンジをどの程度利用するかを、採点評価別に平均値で比較している。

表 6 学生食堂の採点評価別にみた昼食時の利用場所

	0～39点 (87)	40～79点 (258)	80～100点 (43)	全体 (388)	有意確率
カリタスホールラウンジ	1.90	2.20	2.47	2.17	.006
ヨゼフホールラウンジ	2.67	2.59	2.77	2.63	.521
ジュリーホールラウンジ	2.53	2.74	2.60	2.68	.292
100ND	1.52	1.63	1.95	1.64	.020
中庭等のテラス	1.35	1.45	1.58	1.44	.221
空いている教室	2.50	2.77	2.50	2.68	.078
その他、学内の場所（部室など）	1.36	1.41	1.38	1.39	.907
学外	1.76	1.45	1.23	1.49	.000

注) 各場所について「とてもよく利用した」を 4 点、「全く利用しなかった」を 1 点としており、数値が高いほどよく利用されていることを意味する。

表 7 学生食堂の採点評価別にみた昼食時以外のカリタスホールラウンジの利用

	0～39点 (87)	40～79点 (258)	80～100点 (43)	全体 (388)	有意確率
友人とおしゃべりなどをして過ごす	2.19	2.45	2.79	2.43	.014
友人と一緒に勉強する	1.93	2.14	2.42	2.12	.038
一人で勉強や読書をする	1.67	1.96	2.42	1.95	.001
勉強以外のことをして一人で過ごす	1.63	1.96	2.44	1.94	.000

注) 各項目とも「とてもよく利用した」を 4 点、「全く利用しなかった」を 1 点としており、数値が高いほどカリタスホールラウンジでよく過ごしたことを意味する。

表7からは、学生食堂に高得点をつけた者たちが、カリタスホールラウンジで友人とともに、あるいは一人で過ごしている様子をうかがうことができる。先にも述べたように、利用頻度と満足度との間の因果関係は確認することができない。しかし、「長く過ごす」ということは、それ自体が心地よさを生み出すのではないだろうか。例えば、たとえ古くて汚い部室であっても、仲間とともに過ごした空間には愛着を覚え、ここが自分の居場所であると感じることができる。それと同様に、カリタスホールラウンジを頻繁に利用する学生たちにとっては、友人と楽しく語らった思い出や、一人で予習に励んだという実感などが、過ごした空間への満足感となり、それが高評価へと結びついているように思われる。満足感とは無機質な空間からは生じえないことを、この結果は示唆しているということではできないだろうか。

最後に、表8で学生食堂の採点評価別の学生食堂に対する改善要望をみておくことにしよう。0～39点をつけた低評価層は、ほとんどの項目に対して改善の要望を持っているといえる。言い換えるならば、現在の状況に対して全面的な不満を持っているということになるであろう。ただし高評価層も、他のグループに比べれば相対的に数値は低いとはいえ、多くの項目で3点台となっている。彼女たちにとっても、「もっとよくなってほしい」という気持ちは他のグループと変わりはないのであろう。

表8 学生食堂の採点評価別にみた学生食堂改善後の利用回数の増加の見込み

	0～39点 (87)	40～79点 (258)	80～100点 (43)	全体 (388)	有意確率
定食・ランチプレートメニューの充実	3.78	3.47	3.26	3.52	.001
パスタの種類や麺類の充実	3.68	3.36	3.19	3.41	.004
オムライスやパンケーキなどのカフェメニューの充実	3.72	3.40	3.33	3.46	.006
サラダバーの設置	1.81	2.05	2.12	2.01	.167
スープ類の充実	3.21	3.04	3.00	3.07	.386
デザート類の充実	3.55	3.28	3.30	3.34	.060
サイドメニューの充実	3.55	3.17	3.02	3.24	.002
現在より、もう少し低い価格での提供	3.46	3.18	3.21	3.24	.051
座れる場所が確実に確保できる	3.64	3.61	3.49	3.61	.523
営業時間が今までより前後1時間ずつ長くなる	3.22	2.93	3.07	3.01	.105
朝食(定食・モーニング)の提供	2.44	2.13	2.00	2.19	.062
清潔感	3.48	3.28	3.09	3.30	.049
おしゃれな雰囲気	3.37	3.18	2.95	3.20	.064

注) 各改善点について「利用回数が増えると思う」を4点、「自分にとってはあまり関係がない」を1点としており、数値が高いほど改善後の利用回数の増加が期待できることを意味する。

7. 提言と課題

以上の集計結果および別冊資料として添付した自由記述一覧の内容から、学生食堂(カリタスホールラウンジ)の改善に向けて当センターとして提言できることを、早期に取り組むべき課題・中長期的課題に分けて述べる。

まず、急務の課題といえるのは、学生が座って過ごすことのできる「居場所」となる学生食堂への転換である。昼食時に限らず、本学には学生たちが勉強や読書をしたり、友人と語らうためのスペースが不足している。「居場所」が感じられる空間がなければ、本学に対する愛着も生まれ

ず、ますます帰属意識が希薄になってゆくであろう。例えば、友人と雑談をしながら自然と、ゼミでの研究の話や、お互いの将来設計の話へと話題が移っていくような環境を提供できることが望ましい。もちろん、大がかりな工事を伴うような対応策は難しいが、今ある施設の中で少しでも学生のための「居場所」となりうる学生食堂を設けてもらいたい。

また、昼食場所としての学生食堂の改善策としてすぐに着手できそうなこととしては、業者に対して改善要請をすることが挙げられる。自由記述の回答には、厨房の人のやる気のなさ、ゴミブリや食器等の衛生面への不安を指摘する内容が多くみられた。これらはすぐにでも改善しなければならない。「人気のメニューがすぐに売り切れる」という不満も多い。売り切れになりやすいメニューをリサーチするなどして、提供数を増やす工夫をしてもらいたい。さらに、メニューの質の改善や価格の引き下げ、営業時間の延長など、企業努力によってどこまで改善が可能であるのかを本学と業者の両者間で確認することも必要であろう。

中長期的に取り組むべき課題としては、カリタスホールラウンジの位置づけの検討が前提となる。「学生食堂」としての機能を高めていくのか、「居場所」としての機能をより持たせていくのか、その方向性を定めなければならない。それによって、テーブル等の最適となる配置のしかたも異なるはずである。また、新メニューを検討する際にも、例えばテイクアウトメニューやカフェメニュー、デザート等を導入するか否かに関わってくるであろう。

学生たちの要望をすべてかなえることは不可能であり、また現実的でもない。しかし、学生たちの思いを汲みとったうえで、本学の理念に基づき「このような学生であってほしい」というメッセージが学生たちに伝わるかたちの改善を、場当たりのではなく、可能な部分から進めていく必要がある。